

No.93

平成 25 年 5 月 24 日 公益社団法人日本山岳会富山支部

黒部・立山ジオパークについて

新聞などで「ジオパーク」という聞きなれない言葉が報道され、戸惑われた方も多いのでは、直訳すれば「大地の公園」となる。

これは地球科学や地球環境を切り口にした公園作りを指向するもので、平成 16 年にユネスコ (国連教育科学文化機関)が支援して設立された「世界ジオパークネットワーク」により推進され、本県の両隣に「白山手取川ジオパーク」、「糸魚川ジオパーク」があり、前者は日本ジオパーク、後者は世界ジオパークにとそれぞれ認定されている。ジオパークはその地域特有の地質遺産、自然遺産、文化遺産などの中から、特異な事象をジオサイトとして抽出し、それを有機的に結んで物語性を持たせた公園である。

認定のハードルは高く、各分野の基礎研究や研究成果の普及、それを学習する現地研修、それを サポートする現地ガイドの養成も必要で、自然資源の保全を考慮した経済活動、地域振興をも求め られ、これらを達成させるには、民間、研究機関、自治体の三位一体の組織作りが必須となってい る。

本県は一歩遅れをとった形となっており、呉東地区の一部有志によってジオパーク研究会が設立され、この2月18日に設立記念シンポジウムが開催された。

県民会館には予想以上の聴講者が参集する。記念講演は杉本伸一ジオパーク推進協議会事務局次長の「ジオパークへの道のり」で、九州島原半島の歴史、火山都市再興を踏まえたジオパーク認定への苦労話があり、パネルディスカッションは立山砂防カルデラ博物館名誉館長の伊藤和明(日本ジオパーク委員会委員)のコーディネイトにより、竹内章発起人代表(富山大学大学院教授)国香正稔(日本黒部学会会長)永崎泰雄(立山黒部貫光常務取締役)がそれぞれの立場から発言し、ジオパークを案内する受皿としての立場から、富山県自然解説員の水野洋子と立山ガイドの系譜を引き継ぐ佐伯高男の代弁として佐藤武彦が発言した。

ジオパークには弥陀ヶ原のラムサール条約湿地も、立山の氷河も、黒部峡谷やその扇状地も、魚 津の蜃気楼も全て含まれる。

今後は認定に向けて関係者各位縦横のネットワーク作りや、山岳会各員のネットワーク作りや、 山岳会各員の協力が求められている。

(佐藤武彦 記)

第5回山岳講演会「ネパール・ヒマラヤへ~夢の架け橋20年~」

支部主催の第5回山岳講演会は2月15日(金)18時30分から富山県民会館701号室で行われた。富山支部の辻斉会員が講師となり、富山支部会員や遠路来ていただいた石川支部会員、一般の山岳愛好家あわせて約80名が参加してネパールの自然や高山病について学んだ。

【講演要旨】

- ・1979 年、富山県山岳連盟ティリツィオ・ピーク遠征が初め てのヒマラヤ体験。ネパールの雄大な自然と山の民の心に触 れ、美しいヒマラヤにひたすら頂上を求めて登る男のロマン に心惹かれる。
- ・53 才で高校を退職。カトマンズにホテルを建設し、ヒマラヤ山村教育の支援をしながらネパールを訪問する人たちのサポート(ガイド)をして「架け橋」となる。
- ・高山病との闘い:高山病は誰でもかかるが、工夫して克服する人は大丈夫、ゆっくり行動すること、トレーニングと研究が大事、軽いうちに下に降りること、ガイドとしてはヘリを確保する能力が必要。
- ・平成 16 年、ヒマラヤの高山登頂の夢を実現。「夜明けのチョー・オユー」に立ちネパールの山々に感謝した。



(金尾誠一 記)

五支部合同スキー山行(京都・滋賀支部主管)

2013年3月2日(土)~3日(日)

妙高山系前山 1932m

3月1日

富山支部有志で前日から妙高山麓でスキーを楽しむことにして池ノ平温泉に宿を予約した。山田車(永山・川田)、金尾車、川口車(黒部 IC で辻)の3台が8時半に滑川 IC 集合、上信越道の中郷 IC でおりて20分ほどで磯部会員の雪に埋もれたログハウスに着く。妙高山が美しいが天気は下り坂だ。彼女の車も加わり4台で妙高杉ノ原スキー場へ。身支度をしてゴンドラに乗りこんだが、辻さんは金具調整のため残ったため、不幸にも離れ離れになってしまった。ゴンドラを降りたら強風のため運転中止になってしまう。動いている三田原第2高速を2回乗っただけでレストハウスに入る。昼食中に外は雨に変わり、スキーをあきらめて人影も少ないゲレンデを駐車場まで下った。濡れた体で池の平の「おやど山恵」へ。磯部さんは明日の再会を約し帰宅する。別行動で滑っていた鍛冶さんが到着し、オーナーの中島夫妻(奥さんはチェコ人の女医さん)も交えての夕食は地ビ

ールと楽しい会話で盛り上がった。

3月2日

車に新雪が 15cm くらい。ゆっくりの朝食のあと赤倉観光リゾートスキー場へ。磯部さんも合流して半日券でゴンドラに乗る。ゲレンデはガリガリに凍った上に新雪が少し載った感じ。辻さんの先導で何本かすべってから一番下の食堂へ入ると、到着したばかりの近藤・島津組にばったり。昼食後は全員で一番上にあがる。鍛冶・磯部・金尾・山田の4人でシールをつけて前山への斜面を 30 分ほど登ってみた。ガスで視界も効かずダケカンバ



が出てきたあたりで引き返す。ゲレンデを一気に滑り降り全員で写真を撮った。

5支部の宿、妙高温泉「香風館」に入って受付。今宵は川口・鍛冶さんは福井支部の部屋へ。懇 親会は福井の宮本さんの乾杯で始まった。2次会では上越市在住の横山さん(岐阜支部)の地酒も。

3月3日

いよいよ前山へのスキー登山が始まる。シール貼り付けが終わると、岐阜、富山、関西、福井の順番に40名ほどの大行列。ガイドの長谷川氏が先導。ガスの中、視界は昨日より若干良いくらい。2回目の小休止のあと急な尾根状の地形でシールがうまく効かず遅れる人も出てくる。12 時過ぎ頂上に着きシールをはずしここで昼食。ガスが晴れ山が少し見えてきた。岐阜支部から一斉に滑降開始。新雪は軽いパウダーで下に固い層がある。樹木を避けつつ思い思いに滑り下っていく。最後は小沢を横断、階段上りのトラバースでスキー場の一角に出る。あとは駐車場までゲレンデ滑降。田中京都・滋賀支部長の挨拶で今年の五支部スキー山行は無事終了となった。

妙高での三日間天候には恵まれなかったが毎日楽しく滑ることができた。ちょっとしたアクシデントもあったが、有意義な3日間だった。現地在住の磯部会員、福井支部の川口さん、鍛冶さん(4月から富山支部会員)にも参加いただいた。「おやど山恵」の中島さんは元農林水産省北陸農業試験場の研究員で現役時代お世話になった人。天然温泉付きの心あたたまる宿です。

(山田信明 記)





小島鳥水祭に参加して

四国支部が開催した日本山岳会設立発起人・初代会長の小島烏水を顕彰する「小島烏水祭」に妻と参加した。高松市内での前夜祭、碑前祭(顕彰碑の除幕)、記念講演会、そして希望者による剣山ツアーと参加したが、好天に恵まれ四国支部会員の総力をあげた企画ともてなしにより楽しい3日間をすごすことができた。

4月13日(土)

明け方5時半頃の淡路島を震源とする広範囲の地震の影響で、大阪行の特急が次々運休となり、仕方なく金沢から「しらさぎ」で米原に出て新大阪に向かったが、米原駅までずっと立ちぱなしであった。岡山から瀬戸大橋を渡り高松駅に着いたが予定より大幅に遅れてしまった。ホテル花樹海の四国支部受付では尾野支部長らが迎えてくださる。栗林公園の見学はあきらめ二人で高松港へ。今はなき S 氏に新造船の進水



式を見せてもらった造船所のドックが見える。瀬戸内国際芸術祭の作品展示やインフォメーション ブースをのぞいてホテルにもどった。

前夜祭の会場は多くの会員や来賓などでいっぱいとなった。四国支部長、香川県議、高松市長など来賓のあいさつ、尾上会長のあいさつと続き乾杯。同じテーブルには広島、越後、北九州の各支部長も同席された。小島烏水のお孫さん(存命 11 名)の二人の挨拶もあり山の歌・歌曲のソプラノ独唱で盛り上がり、本場徳島からの阿波踊り(会場全体が輪踊りを経験)で最高潮に。

4月14日(日)

碑前祭は峰山公園の「はにわっ子広場」で。剣山ツアーの一行は同じマイクロバスに荷物を積み込んで小高い公園へ移動。顕彰碑の前ではすっかり準備が整っていたが、参加者は少し歩いて展望台へ。眼下にのどかな瀬戸内海と島々、高松港や市街地が手に取るように見下ろせる。9時に神事が始まり、尾上会長と尾野支部長の手で顕彰碑が除幕された。記念式典では各氏のあいさつが終わり、高原常務理事と出席している13支部から一人づつ白菊の献花をおこなった。記念撮影などで碑前祭は滞りなく終了した。この顕彰碑は小島烏水のレリーフ(佐藤久一朗氏制作)がはめ込まれ、左側には近藤信行氏による碑文の陶板がはめ込まれた立派なもの。おだやかな日曜日で来園者がいっぱいの公園のその一角が輝いてみえた。昨年2月に四国支部が誕生し、1年あまりで顕彰碑の建立から第1回の小島烏水祭開催にこぎつけられた四国支部に敬意を表したい。

そのあとは高松城へ移動し、披雲閣での昼食と史跡高松城跡の見学、記念講演会と続き、剣山ツアー一行は別れの挨拶もそこそこにマイクロバスに乗り込んだ。徳島県三好市東祖谷山の宿泊地まで山間の道を延々と走り、到着した時はすっかり日も暮れていた。道中林の中に白っぽく浮かんで見えた花は野生のミツマタであった。

剣山 1955m

小島烏水祭終了後、希望者による剣山ツアー(18 名?)に妻と参加した。越後支部長夫妻や節田理事、昨年の自然保護全国集会でお世話になった尾瀬長蔵小屋の平野さんらも一緒だった。前泊は「いやしの温泉郷」の離れ。平家の落人伝説の奥祖谷に泊まることから五箇山の地酒三笑楽を持参した。

前夜の通り雨でしっとりした爽やかな快晴。マイクロバスで登山口「見ノ越」に着く。さすが日本百名山で大勢押し寄せるとあって広い駐車場や土産物屋があるが、まだ春浅いとあってがらんとしている。四国支部のリーダーに従い登山開始。リフト終点駅までの登りは風が冷たかった。先日の寒波で積もった雪がまだ残って白く見える。標高が高くなるにつれどこまでも続く山並みに圧倒される。途中一箇所雪の上をしばらく歩き、やがて鳥居をくぐると頂上ヒュッテに着く。木道を歩いてだだっぴろい山頂へ。一等三角点の標柱は丸い土俵のように石に埋められ、しめ縄が囲っている。もう一つの百名山石鎚山は霞んで見えなかったが、隣の次郎笈は緑が美しい。小屋では前夜祭にも出席された二代目主人新居さんからいろいろお話を伺い楽しいひとときだった。しかし下山路では皮をかじられて立ち枯れた樹や、シカの姿を間近にみて四国の山の深刻な現状を見た気がした。(山田信明 記)





妙高だより

「支部会報に、妙高のコーナーを作ったら」と、支部 長からのおすすめがあり、普段は支部の皆さんとなか なかお会いできないことも気になっていたので、近況 報告も兼ねて、紙面の隙間を埋めさせて頂こうと思い ます。

妙高に引っ越して、2年半になります。夫の仕事上、 新潟を離れることはできないものの、新潟に居を構え ることは考えていなかったのですが、中越沖地震等い



くつかのきっかけがあり、山が豊富な妙高に、県内産のスギを使ったログハウスを建ててもらって 住むことになりました。

昨年、一昨年はわりあい大雪でしたが、今年は小雪で、楽な冬を過ごしました。家の中は、薪ストーブで暖かです。近所の方々が、雪で折れた屋敷の木を下さったりして、今のところ、薪に不自由はしていません。ありがたいことです。私も薪割りは好きですが、最近は私が山に行っている間に、夫がせっせと割ってくれるパターンが増えてきました。

山といえば、こちらでは地元の山岳会「アスターク同人」で活動しています。誘いを受けたとき、登山道歩き中心の会なら入らなくてもよいと思っていましたが、実態は、岩、沢、スキーから山菜・キノコ採りまで、地元の山を遊び尽くしている山岳会でしたので、即入会しました。これまでのブランクを埋めるべく、貪欲に山に行っております。(「アスターク同人」でググれば、出てきます。私も時々、山行報告を書いていますが、それも会員の義務なので、そういった意味でもガンバッている会です。)

赤倉のスキー場で皆さんとご一緒した後は、鍋倉山、高デッキ山、大毛無山等に登りました。山 スキーはまだまだ未熟ですが、もっといろんな山に行けるよう、スキーの技術も向上させていきた いです。

(新潟県妙高市 磯部実穂 記)



富山市山岳協会主催親睦雪山ハイク

平成 25 年 2 月 11 日(月)

大乗悟山 590m(旧細入村)

加盟 6 団体(日本山岳会富山支部、富山山想会、北陸電力山岳部、不二越山岳会、富山県庁山岳スキー部、富山市役所山岳部)恒例の親睦雪山ハイクに参加致しました。

日本山岳会は9名(内、会友3名)の参加者です。 国道41号線から天湖森に入ると、もう割山神社まで 縦列駐車です。



過疎化となった割山集落は総勢41名の華やいだ賑わいは久しいのではないでしょうか。

今朝は放射冷却で雪はサラサラです。カンジキやスノーシューは林道から杉林を直登し、ラッセル無しの心地良い歩きです。未だ蕾の檀香梅やマンサクが春を待っている様に思えました。時々雪が舞っていましたが、大乗悟山頂上に着いた頃はカンナオ山が雲の切れ目より見えてきました。なだらかな尾根続きで、2,3 の会はカンナオ山へと行きましたが、私達はここで早めの昼飯にしました。風避けにツエルト張り、持ち寄った焼肉となめこ饂飩(利賀村の立枯れミズナラのなめこ)は体が温まり美味しかったです。

記念写真を撮り下山しました。参加賞もあり、親睦雪山ハイクを楽しんで頂きお疲れ様でした。 (山岸和子 記)

野沢の火祭り

ASCのメールで野沢集会を知り、野沢は私がスキーの覚え初めに一度行ったことがあったがもう60年前で記憶はすっかり薄れていたが、あの火祭りを是非見たくて参加をお願いしたところ、川合代表から快諾を頂きビジターの島津さんと参加することになりました。

私はASCの行事には初参加で大分よれよれのニューフエイスで、 顔見知りの方は一人もいなかったのですが、皆さんは100年の既知の如く暖かく迎えて頂き実に楽しい3日間を過ごさせて頂きました。

<日 程>

1月14日(月)~16日(水)

<メンバー>

石原(康)、岡田、織方(V)、加藤(晴)、川合、菊嶋、工藤、後藤、近藤、島津(V)、高井(紀)、高井(延)、早川(英)、薮田

1月14日 雪

富山からの北陸路はズーッと雨だったが妙高辺りから雪になりカーナビのお陰で迷うこともなく12時過ぎ「かじや旅館」へ到着した。

先着の数名は既にゲレンデへ出ておられ、私は川合代表に初対面の挨拶、3時半に内田食堂へ皆集合ということで島津さんとゲレンデへ出かけた。ゲレンデは昔の面影はなく素晴らしい設備を整えたスキー場となっていた。

雪降りのなかゴンドラで上の平まで上りゆるゆる足慣らしのスキーを走らせ内田食堂へ集合した。 我がメンバーはみな初対面だったがご様子ですぐ分かった。一同揃ったところでビールで乾杯!定例行事の一つらしい。

6時30分川合代表の挨拶で懇親会は始まった。 食べきれぬご馳走を前に飲み且つ談論風発尽き ることなく、賑やかに野沢の夜が更けていった。



1月15日 雪

今日も朝から降り続いていたが皆は嬉々として出かけていった。

私は実質初めてなので岡田さんにご案内頂き、織方さん、高井さん、工藤さん達と毛無山へ上が り2本滑りその後スカイラインを一本滑った。

依然雪は降り止まず、晴れなら毛無山から北アルプスの大景観が見られるのに今日はリフト終点に 1650m と書かれた標高板が雪に翳んでいるだけだった。しかし雪質は最高の楽しみを与えてくれた。

お昼に上の平食堂へ一同集合、食事を取る。ここの「カツ重」は絶品だった。午後はまた内田食 堂で落ち合うことで皆ゲレンデへ散っていった。

私は島津さんと降り止まぬ雪のお陰で素晴らしい雪質のなかシュナイダーやチャレンジコース の滑りを楽しんだ。

4時にまた内田食堂で乾杯後かじや旅館へ向った。食事前、楽しみにしていた「熊の手洗湯」へ 浸かりにゆく。日本の原風景のような温泉のぬくもりが身に沁みた。

6時すぎ宴会、皆さんお酒の強いこと!何よりも驚いたことはこのメンバーの皆さんの年齢の高さとそれを感じさせぬ華麗な滑り!織方さんはあの高齢にして新しい用具を求め更なる進化を目指していらっしゃる! 岡田代表にいたっては「私は120歳まで滑る積もり」と怪気炎をあげていらっしゃる。只々呆れるやら、恐れ入るやら。



(ちなみに織田さんは 83 歳、川合さんは私と同じ 82 歳です)

ASCのメンバーの皆さんの「凄さ」を痛感した 次第です。

10時ごろ念願の「火祭り」を見に行く。道祖神火祭りの攻防は最高潮で、次第に燃え上がる社殿から吹き上げる火の粉が夜空に舞い上がり実に豪壮な見ごたえのあるお祭りに酔いしれた。

1月16日晴れ

朝から素晴らしいお天気になった。また来年の再開を約しそれぞれゲレンデへ、帰路へ。私は3月にJAC五支部の山スキー集会が赤倉であるので下見に行き午前中滑り午後満ち足りた思いで帰路についた。

工藤さん(元警視庁)が警視庁特注「桜田門」との焼銘の入った焼酎を持参されていた。その壺が何とも風情があるので来年また参加してあの壷を是非手に入れたいと思っている。

(近藤 晋記)

平成25年度支部総会開催、支部創立65周年事業などを決定

平成25年度富山支部総会は、4月20日(土)午後3時より富山電気ビルディングで24名が参加して行われた。初めに昨年亡くなられた谷村副支部長、元会員の相沢増平さんを偲んで黙祷した。

開会挨拶で山田支部長は、「今年は支部創立 65 周年の年であり、多くの記念事業が計画されているので皆さんの参加、協力をお願いしたい。これまでの先輩方が築いてこられた伝統をさらに発展させるために皆で努力しましょう。」と呼びかけ、さらに「本部企画の「日



本三百名山ガイドブック」発行、富山県山岳連盟の「富山100山」出版事業もあり「かなり負担になると思うが、全員の力で元気に乗り切っていこう。」と締めくくった。

審議では提案された議案は一部修正した上ですべて承認された。なお、創立 65 周年記念事業として、「山の日」講演会、播隆祭関連事業、自然保護全国集会の共催、国内外の記念山行を行うことを決定した。また、新役員として渋谷茂会員、河合義則会員、鍛治哲郎会員を選出した。

この後、木戸繁良顧問(前支部長)によって「日本山岳会富山支部65年のあゆみ」と題して記念講演が行われた。富山支部の発足の経緯や富山県山岳連盟、富山県自然保護協会との関連など富山県山岳界をリードした富山支部の輝かしい歴史が語られた。歴代役員のこと、支部会報の復活、支部ルームのことなど木戸顧問ならではといえる裏話的な内容もあった。また貴重な当時の資料も披露され、記録して



おくことの重要さも強調された。今回の講演は富山支部の歴史を再認識し、将来へつなげる道を示唆していただく機会となった。

懇親会では会員同士の打ち解けた懇談が続いた。また合間に、山田支部長が4月13・14日に参加した「小島烏水祭」の様子がスクリーンで紹介された。

(総会出席者) 木戸、佐伯(郁)、 中島(博)、高塚、石浦、山田、有 沢、近藤、松本、村上、森、平田、 川田、金尾、河村、佐藤、山岸、



本郷、道正、渋谷、伊東、島津、河合、北田(新入会員)

(金尾誠一 記)

3月例会山行·奥医王山 939.16m

[月 日] 平成25年3月8日(金)

[参加者] 山田信明、永山義春、河村靖晴、山岸和子、渋谷 茂、菅田静子、本郷潤一、 阿部千賀雄(山友)

朝 8:30 イオックスアローザスキー場集合のところ、本郷他 2 名が 10 分ほど遅れて駐車場着。 天候は小雨。ゴンドラ乗り場に着いた 9:00 頃には曇り空となる。およそ 20 分程で高低差 400 m、標高 750 m 地点に着く。ここからスキー組 3 名、スノーシュー1 名、かんじき 4 名で行動開始。

9:00 夕霧峠(840m)着。既にスキー組(山田、永山、河村)は奥医王山に向け出発。峠の案内板の上部だけが覗いている程の積雪。5分ほど休憩して出発。暫くすると右手に「見返りの大杉」、その先の左手下には「竜神池」を見る。ブナの自然林や、ちらほら咲くマンサクの花の下を峠から 30分程歩くと奥医王山の山頂に着いた。当然ながら一等三角点の標柱は雪に埋まり、2.5mはあろうかと思われる展望台の脚部は雪に覆われている。黄砂の影響か、眺望は今一つすっきりしない。

10:50 下山開始。春休みなのか、若者達のスキーをする姿が見えた。その横を歩いて下り、12:00 に駐車場に到着した。ゲレンデの雪はざらめ状態で、このスキー場の今シーズンも残り少ない感じである。今回の行程は2時間程であったが、程よい汗がかけた山行であった。

(本郷潤一 記)



5月例会山行「立山スキー」

日時 5月10日(金)~11日(土) 参加者 近藤、鍛治、金尾、島津

25 年度最初の月例山行は、恒例となった立山スキー。今回は近藤さんのお世話で JAC のアルペンスキークラブ(ASC)に合流する形となった。9 時 20 分発のケーブルカーは台湾の方々で満杯、雪の大谷の積雪は17m であった。スキーシールを装着し、1時間半で一の越まで登る。途中、稜線近くの斜面からライチョウの鳴き声が聞こえ登りの疲れを一時忘れた。一の越は相変わらず風が強かったが、槍ヶ岳や後立山の山々が眺められた。



木村監督(右から二人目)と記念撮影

休んでいると間もなく雄山から重装備の一団が降りてきたので、聞いてみると映画の撮影隊であった。間もなく木村監督も降りてこられたので、記念撮影をお願いした。降りは雄山の西面を斜めに横切り雷鳥沢に下ったが、雪が重くターンに苦労した。雷鳥沢ヒュッテに入ると、ASC メンバーの方々はすでに到着しておられた。この小屋は近藤さんが 20 年来のつきあいということで、気持ち良く対応していただけた。ASC の方々ともいろいろスキー登山の話などをお聞きし賑やかな集会であった。夕方からは雨模様となり、明けても雨は上がらず、富山組は皆さんと別れて室堂へ向かった。天候には十分恵まれなかったが、小屋の前やりんどう池近くでもライチョウが姿を現してくれたのが幸いであった。 (金尾誠一 記)

「日本三百名山登山ガイド」の出版について

日本山岳会が選定した「日本三百名山」のガイドブックが山と渓谷社から 2000~2001 年に出版 されていますが、これを全面的にリメイクして来年5月に出版されることになりました。日本山岳 会の各支部が取材・執筆するもので、富山支部が担当する山は下記のとおりで、各担当者へはすで に依頼済みです。取材期間が来年1月までと大変短く、日数を要する山域もあって大変ですが、取 材山行に同行協力いただける方は事務局または直接本人に連絡下さい。

1.	朝日岳・雪倉岳・白馬岳	8/10~12	渋谷 茂	Tel0766-67-3646
2.	毛勝山	夏	佐伯郁夫	Tel0765-24-5095
3.	(剱沢)剱岳(早月尾根)	夏	IJ	"
4.	立山 (別山)	8/31~9/1	渋谷 茂	
5.	奥大日岳 (大日岳)	$8/25 \sim 26$	"	
6.	鍬崎山	秋	永山義春	Tel076-483-2122
7.	(五色ヶ原)薬師岳	夏	村上清光	Tel076-463-2141
8.	黒部五郎岳・三俣蓮華岳	夏	永山義春	
9.	烏帽子岳・野口五郎岳・	夏	金尾誠一	Tel076-438-2716
	黒岳・赤牛岳			
10.	白木峰	6/下	本郷潤一	Tel0766-84-2854
11.	金剛堂山	8/中	山田信明	Tel 0766-61-3010
12.	人形山(三ヶ辻山)	6/中	近藤 晋	Tel0766-24-1860
なお、上記以外の県境上の三百名山については、信濃支部と石川支部が担当します。				
				/ t t = ==== =====================

(山田信明 記)

松尾峠遭難 90 年祭

松尾峠の遭難から 90 年を迎え、板倉勝宣の母校學習院山岳部が記念事業を実施した。4 月 6 日、 芦峅寺ふるさと交流館で、五十嶋一晃氏、錦織英夫氏、飯田 肇氏による講演会が行われ山岳関係 者約 150 名が参加し冬山遭難の教訓を学んだ。日本山岳会関係では、共催の富山支部他石川支部、 福井支部、栃木支部からも多くの参加をいただきました。お礼申し上げます。

また、7日には風土記の丘、遺躅之碑前で90年祭が行われた。

■参加者(敬称略)

(富山支部) 木戸、佐伯(郁) 夫妻、飯田、近藤、山田、松本、鍛治、稲葉、金尾夫妻、本多、 佐藤、浦井夫妻、伊東、河合

(石川支部) 埴崎、前川、飛騨 (福井支部) 宮本、大田、加賀 (栃木支部) 渡邉、山野井、 坂口、森、山本、上田 (金尾誠一 記)

お知らせ

【叙勲】高櫻英輔さん(会員番号12752)

平成25年4月29日付で発表された春の叙勲で、保健衛生功労により瑞宝小綬章を受賞されました。おめでとうございました。

【住所変更】田邊稔雄さん(会員番号 13973)

(新住所) 〒930-0895 富山市駒見 349 番 18 号

永山義春さん、広瀬弘さんの新住所は総会資料[会員名簿]に記載のとおりです。

【移転】小島屋書店(国土地理院の地図販売店)

(新住所) 〒930-0026 富山市八人町 1-4

編集後記

今年の春は全体としては寒く感じた割には桜の開花も早く、4月に入っても高い山では雪が積もり、山を目指す人々には面食らう天候でした。連休頃になってようやく天気の回復もみられ、喜ばしい状態になりました。しかし、中間山岳地より低い所では平地の積雪状態に近く、小雪でしたが、それより高い山岳地では残雪も多く、低い気温で融雪が遅れているようです。連休時の山岳遭難も多く、残念な結果となっているようです。

我が日本山岳会富山支部は 65 周年を迎え、多くの行事が続いています。「日本 300 名山」の分担登山も計画され、日程調節に四苦八苦している状態です。くれぐれも事故の無いように山行を楽しみたいと思います。 (広報委員 川田邦夫)

公益社団法人日本山岳会 富山支部会報 第93号

発行者:山田信明 編集者:川田邦夫

事務局:金尾誠一 〒931-8451 富山市銀嶺町 10-16 №076-438-2716, 090-2036-5853

E メール s-kanao@pf.ctt.ne.jp